

## プログラム

### プレコンgres

18日(金) 17:30~19:30

#### 赤ちゃん(乳幼児)の眠りを守る～眠育の重要性とディレンマ～

座長：木下 純(赤ちゃん学を学ぶ会 代表)

PC-1 「社会的時差ぼけ」～から赤ちゃんを守る～

三池 輝久(熊本大学名誉教授/日本眠育推進協議会理事長)

PC-2 保育所と発達支援教室での睡眠・生活リズムづくりと課題

長谷川武弘(アートチャイルドケア株式会社 主任研究員)

PC-3 沖縄の子育て環境と言語

賀数さゆり(お茶の水女子大学人間創成科学研究科 博士後期課程)

PC-4 こどもの睡眠を守るために -働く親の抱えるジレンマと罪悪感-

麦谷 綾子(日本女子大学人間社会学部心理学科)

### シンポジウム1

19日(土) 10:00~12:00

#### 自発活動と発達

座長：荒田 晶子(兵庫医科大学 生理学・生体機能部門)

SY1-1 新生児期から成熟期にいたるシナプスの強化・刈り込み・維持のメカニズム

鳴島 円(生理学研究所 生体恒常性発達研究部門)

SY1-2 ヒト胎児とラット胎仔を繋ぐ胎動性活動を指標とした解析

荒田 晶子(兵庫医科大学 生理学・生体機能部門)

SY1-3 胎児期における胎動性活動を指標とした発達のターニングポイント  
(胎動性活動解析から見た胎児の発達ステージの分類)

中原 一成(九州大学大学院 医学研究院 生殖病態生理学(産婦人科))

SY1-4 発達初期の自発的全身運動から紐解く脳神経系回路形成

金沢 星慶(東京大学大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻)

## ヒトとロボットの触覚・痛覚の発達とその社会性基盤

座 長： 浅田 稔 (大阪大学先導的学際研究機構 共生知能システム研究センター)

SY2-1 ヒトとロボットの触覚・痛覚の発達とその社会性基盤

浅田 稔 (大阪大学先導的学際研究機構 共生知能システム研究センター)

SY2-2 社会脳の発達と身体接触－なぜヒトは他者からこれほど学びたがるのか

明和 政子 (京都大学大学院教育学研究科)

SY2-3 胎児・早産児における感覚情報の活用と発達

岩田 欧介 (名古屋市立大学医学部 新生児・小児医学分野)

SY2-4 豊かな対接触反応を返せる子供アンドロイドの実現に向けて

石原 尚 (大阪大学大学院 工学研究科 機械工学専攻)

## ラウンドテーブル1

19日(土) 15:30~17:00

## 「新型コロナ時代の」発達研究法について考える

企 画 者： 赤ちゃん学会若手部会

代表 村上 太郎 (九州女子大学)

司 会： 堀井 隆斗 (大阪大学大学院基礎工学研究科)

話題提供1： テレ保育ロボット ChiCaRo と遠隔保育技術を活用したリモート調査

阿部 香澄 (電気通信大学 人工知能先端研究センター 特別研究員)

話題提供2： オンラインの養育者研究－実践例－

平岡 大樹 (福井大学)

話題提供3： 顔の表情が隠されている状況における言語発達

モニカ・バーベア (東京大学国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構)

話題提供4： 新型コロナウイルス流行後のオンラインインタビュー活用方法について

富田 有香 (株式会社ネオマーケティング)

話題提供5： ManyBabies-AtHome: 国際的な遠隔乳幼児調査方法の確立に向けて

辻 晶 (東京大学国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構)

話題提供6： 赤ちゃん学センターで取り組む在宅型の研究調査と今後の展望

加藤 正晴 (同志社大学赤ちゃん学センター)

赤ちゃん学と保育の未来を考える：小西行郎先生が私たちに託したものはなにか？

企画者：日本赤ちゃん学会 保育実践科学部会

ファシリテーター：麦谷 綾子（日本女子大学）

話題提供者：三枝 節子（フリー編集者）

指定討論者：相山 慈（あさりこども園）  
乙部 貴幸（仁愛女子短期大学）  
川 隆太郎（埼玉療育園）

ラウンドテーブル2

20日(日) 10:15~11:45

知覚発達研究と保育実践をむすぶ

企画者：嶋田 容子（同志社大学赤ちゃん学研究センター）

話題提供1：乳児とモノ：アフォーダンスの知覚から考える  
丸山 慎（駒澤大学）

話題提供2：乳幼児の聴覚特性と音環境づくり  
嶋田 容子（同志社大学）

話題提供3：乳幼児の視覚特性と保育環境の関わり  
楊 嘉楽（中央大学）

話題提供4：味わいの発達  
和田 有史（立命館大学）

指定討論者：山口 真美（中央大学）

## With コロナ時代の挑戦 – 親子相互交流療法 (PCIT) の実践 –

企画者・司会： 門田 行史 (自治医科大学小児科学・国際医療福祉大学病院)

## 話題提供1： With コロナ時代の挑戦

–はじめまして Parent Child Interaction Therapy 親子相互交流療法–  
加茂登志子 (一般社団法人日本PCIT 研修センター/PCIT-Japan 理事長/精神科医)

## 話題提供2： with コロナ時代の挑戦

–“家庭とセラピストをつなぐ”インターネットPCITの実践–  
川崎 雅子 (一般社団法人日本PCIT 研修センター/心理士)

## 話題提供3： with コロナ時代の挑戦

–“北海道と東京をつなぐ”PCIT トレーナー育成システムの構築にむけて–  
黒鳥 偉作 (道立羽幌病院/内科医、精神科医)

## 話題提供4： with コロナ時代の挑戦

–児童相談所におけるPCITの実践と課題–  
小平かやの (東京都児童相談センター/小児科医)

## シンポジウム3

## 発達の子兆を読む – 親子の関係性から占う赤ちゃんの未来 –

座 長： 遠藤 利彦 (東京大学)

## SY3-1 乳児の社会性と親子関係の発達

–実験・観察・面接の組み合わせから見えてくるもの–

篠原 郁子 (国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター/幼児教育研究センター)

## SY3-2 自他の類似性理解が拓くコミュニケーション

実藤和佳子 (九州大学大学院人間環境学研究院)

## SY3-3 乳幼児期の関係性発達における養育者のメンタルヘルスの意義

山下 洋 (九州大学病院 子どものこころの診療部)

## SY3-4 アタッチメント理論に基づく親子の関係性支援

北川 恵 (甲南大学文学部)

## プログラム (ポスター)

ポスター〈前半〉

19日(土) 17:10~17:50

- P1-01 (YIA)** 乳児の泣きに対する信念の縦断的变化  
- 乳児の気質発達との双方向的関連性の検討 -  
○平岡 大樹<sup>1,2</sup>、野村 理朗<sup>3</sup>、加藤 正晴<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>福井大学 子どものこころの発達研究センター、<sup>2</sup>日本学術振興会、<sup>3</sup>京都大学 教育学研究科、  
<sup>4</sup>同志社大学 赤ちゃん学研究センター
- 
- P1-02** 看護師による新生児のオムツ交換時のケアの実態  
~ 看護師の臀部のケアの方法と考え ~  
○園田 麗夏  
独立行政法人国立病院機構都城医療センター 新生児集中治療室
- 
- P1-03** APIB (早産児行動評価) を用いた新生児期の介入  
○藤本 智久<sup>1</sup>、六山 梓<sup>1</sup>、皮居 達彦<sup>1</sup>、田中 正道<sup>1</sup>、久呉 真章<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>姫路赤十字病院 リハビリテーション科、<sup>2</sup>姫路赤十字病院 小児科
- 
- P1-04 (YIA)** 1・2歳児のリトミックにおける模倣行動の縦断的变化  
○小林 優香、今福 理博  
武蔵野大学教育学部
- 
- P1-05 (YIA)** 遠隔保育ロボットを用いた乳幼児の言語発達評価システム  
~ 言語聴覚士による巡回支援の補助を目的として ~  
○三木 晴子<sup>1</sup>、阿部 香澄<sup>2</sup>、堀井 隆斗<sup>1</sup>、長井 隆行<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>大阪大学大学院 基礎工学研究科、<sup>2</sup>電気通信大学大学院 情報理工学研究科
- 
- P1-06 (YIA)** 妊娠中期における初産婦の胎児愛着に影響を及ぼす要因  
○田中 希実<sup>1</sup>、佐藤 洋子<sup>2</sup>、諸隈 誠一<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>福岡大学病院 総合周産期母子医療センター 新生児部門、<sup>2</sup>九州大学大学院医学研究院保健学部
- 
- P1-07 (YIA)** 乳幼児歩行データベースの構築に向けた妥当性の検証  
○植田 智也<sup>1</sup>、浅野 春菜<sup>1</sup>、瀬尾 加奈子<sup>1</sup>、柘植 今日子<sup>1</sup>、福田 優子<sup>1</sup>、須藤 元喜<sup>1</sup>、  
奥田 泰之<sup>1</sup>、片岡 潔<sup>1</sup>、内藤 久士<sup>2</sup>、岩崎 博之<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>花王株式会社、<sup>2</sup>順天堂大学、<sup>3</sup>十条こどもクリニック
- 
- P1-08 (YIA)** 音楽とリズムカルな身体揺動が母子の情動状態に与える影響  
- 心拍反応と乳児の発声行動を指標として -  
○吉村 麻美<sup>1</sup>、渡辺 謙<sup>2</sup>、麦谷 綾子<sup>3</sup>、梶川 祥世<sup>1,4</sup>  
<sup>1</sup>玉川大学 脳科学研究科、<sup>2</sup>NTTコミュニケーション科学基礎研究所、<sup>3</sup>日本女子大学 人間社会学部、  
<sup>4</sup>玉川大学 リベラルアーツ学部
- 
- P1-09 (YIA)** 好奇心といたいいないばあ：乳幼児の視覚的注意の発達的变化および個人差の検討  
○新屋 裕太<sup>1</sup>、石橋 美香子<sup>2</sup>、野澤 祥子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東京大学大学院 教育学研究科、<sup>2</sup>お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
- 
- P1-10** バングラデシュにおける遠隔での新生児健診について：介入中間時における結果報告  
○菊地 君与<sup>1</sup>、佐藤 洋子<sup>1</sup>、錦谷 まりこ<sup>2</sup>、伊豆倉 理江子<sup>3</sup>、イスラム ラフィクル<sup>2</sup>、  
加藤 聖子<sup>4</sup>、諸隈 誠一<sup>1</sup>、ネッサ メヘルン<sup>5</sup>、横田 文彦<sup>6</sup>、中島 直樹<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>九州大学 医学研究院 保健学部、<sup>2</sup>九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター、  
<sup>3</sup>九州大学 医学研究院 基礎医学部門、<sup>4</sup>九州大学 医学部 婦人科学産科学教室、  
<sup>5</sup>Department of Gynecology, Holy Family Red Crescent Medical College & Hospital、  
<sup>6</sup>九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター

- P1-11 保育園における継続的な“眠育”実践(2):取り組みを通じた保護者の変化**  
○大森 正枝<sup>1</sup>、河南 佐和呼<sup>1</sup>、徳長 良美<sup>1</sup>、長谷川 武弘<sup>1</sup>、高橋 香織<sup>1</sup>、田中 亜希子<sup>1</sup>、三池 輝久<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>アートチャイルドケア株式会社、<sup>2</sup>日本眠育推進協議会
- 
- P1-12 早産/低出生児の運動発達の変化に影響するマイルストーンの調査**  
○一之瀬 大資、中村 都、清水 雄介、満富 一彦  
磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科
- 
- P1-13 妊婦の内受容感覚と不安・うつ傾向との関連**  
○野田 三奈未<sup>1</sup>、諸隈 誠一<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>福岡赤十字病院 産婦人科、<sup>2</sup>九州大学大学院 医学研究院保健学部門
- 
- P1-14 (YIA) 乳幼児のグラスプ-リリース運動の発達に及ぼす要因の解明**  
○梯 絵利奈<sup>1</sup>、阿部 和大<sup>2</sup>、山本 絵里子<sup>3,4</sup>、秦 政寛<sup>1</sup>、石川 直樹<sup>2</sup>、堀江 秀斗<sup>5</sup>、青木 義満<sup>5</sup>、皆川 泰代<sup>2,4</sup>  
<sup>1</sup>慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート、<sup>2</sup>慶應義塾大学 大学院社会学研究科、<sup>3</sup>相模女子大学 人間社会学部、<sup>4</sup>慶應義塾大学 文学部、<sup>5</sup>慶應義塾大学 大学院理工学研究科
- 
- P1-15 (YIA) 乳児自発運動における sensorimotor interactions の時空間パターンの発達の变化**  
○金沢 星慶<sup>1</sup>、田中 一敏<sup>2</sup>、河井 昌彦<sup>3</sup>、國吉 康夫<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東京大学大学院情報理工学系研究科、<sup>2</sup>オムロンサイニックス株式会社、<sup>3</sup>京都大学大学院医学研究科
- 
- P1-16 (YIA) 乳幼児の仰臥位の蹴り動作にみられる運動発達:運動の複雑さとパタン形成の非線形分析**  
○鳥居 拓馬、日高 昇平  
北陸先端科学技術大学院大学
- 
- P1-17 (YIA) ラット初期胎動性活動の分類と炎症における発達過程の解析**  
○佐久間 大介<sup>1,2</sup>、吉田 早希<sup>1,2</sup>、玉木 彰<sup>2</sup>、中原 一成<sup>3</sup>、諸隈 誠一<sup>3</sup>、荒田 晶子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>兵庫医科大学 生理学・生体機能部門、<sup>2</sup>兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科、<sup>3</sup>九州大学 医学研究院 保健学科
- 
- P1-18 (YIA) 乳児と母親における内受容感覚の評価:母子の行動同期との関連**  
○今福 理博<sup>1</sup>、吉本 廣雅<sup>2</sup>、開 一夫<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>武蔵野大学 教育学部、<sup>2</sup>東京大学大学院 総合文化研究科
- 
- P1-19 発達初期における身体運動の産出能力はその後の他者の身体運動の理解能力を予測するか?**  
○山本 絵里子<sup>1,2</sup>、秦 政寛<sup>2</sup>、石川 直樹<sup>3</sup>、阿部 和大<sup>3</sup>、皆川 泰代<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>相模女子大学 人間社会学部人間心理学科、<sup>2</sup>慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート、<sup>3</sup>慶應義塾大学大学院 社会学研究科、<sup>4</sup>慶應義塾大学 文学部
- 
- P1-20 共同注意における生得的基盤の再検討**  
○清水 章子  
清水心理研究所
- 
- P1-21 データ駆動力学系を用いた乳児の自発運動における個性の検出**  
○多賀 厳太郎<sup>1</sup>、渡辺 はま<sup>1</sup>、儀間 裕貴<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>東京大学 大学院教育学研究科、<sup>2</sup>鳥取大学 地域学部附属子どもの発達・学習研究センター
- 
- P1-22 (YIA) 呼吸リズムに対する TRPA1 の修飾作用**  
○辻村 拓也、垂水 千紘、柴田 直人、荒田 晶子  
兵庫医科大学 生理学生体機能

- P2-01 (YIA)** 新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛要請が、空想の友達の生成に及ぼす影響  
○山口 将典<sup>1,2</sup>、森口 佑介<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>京都大学大学院 教育学研究科、<sup>2</sup>日本学術振興会特別研究員DC、<sup>3</sup>京都大学大学院 文学研究科
- 
- P2-02** 保育施設における音環境の現状と課題、向上への取組み  
ー日本赤ちゃん学会保育環境部会が目指すものー  
○志村 洋子<sup>1,2</sup>、藤原 義一<sup>2</sup>、高橋 翠<sup>3</sup>、嶋田 容子<sup>1,2</sup>、船場 ひさお<sup>4</sup>、野口 紗生<sup>4</sup>、小野 恭子<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>同志社大学赤ちゃん学研究センター、<sup>2</sup>保育施設の室内音環境改善協議会、<sup>3</sup>Cedep 東京大学大学院教育学研究科 附属 発達保育実践政策学センター、<sup>4</sup>一般社団法人こどものための音環境デザイン
- 
- P2-03** 新型コロナウイルスによるパンデミックは子どもの社会情緒的行動に影響を及ぼすか  
○森口 佑介<sup>1</sup>、坂田 千文<sup>1</sup>、孟 憲巍<sup>2</sup>、登藤 直弥<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>京都大学大学院文学研究科、<sup>2</sup>同志社大学、<sup>3</sup>筑波大学
- 
- P2-04 (YIA)** 集団優位性認知の初期発達  
○孟 憲巍、加藤 正晴、板倉 昭二  
同志社大学 赤ちゃん学研究センター
- 
- P2-05 (YIA)** 共同行為場面における幼児の共表象：ジョイントフランカー課題を用いた検討  
○坂田 千文、森口 佑介  
京都大学 文学研究科
- 
- P2-06** 幼児期前期の幼児の音楽行動特性と家庭の音楽環境との関連  
○平田 嘉之  
名古屋市立大学
- 
- P2-07 (YIA)** 排尿想定されたパンツ型紙おむつ着用が乳幼児歩行に与える影響  
～月齢に着目して～  
○植田 智也<sup>1</sup>、浅野 春菜<sup>1</sup>、瀬尾 加奈子<sup>1</sup>、柘植 今日子<sup>1</sup>、福田 優子<sup>1</sup>、須藤 元喜<sup>1</sup>、奥田 泰之<sup>1</sup>、片岡 潔<sup>1</sup>、内藤 久士<sup>2</sup>、陸 大江<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>花王株式会社、<sup>2</sup>順天堂大学、<sup>3</sup>上海体育学院
- 
- P2-08 (YIA)** バックワードマスキング法による幼児と成人の視覚的意識の検討  
○渡部 綾一<sup>1</sup>、森口 佑介<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>京都大学大学院 教育学研究科、<sup>2</sup>京都大学大学院 文学研究科
- 
- P2-09 (YIA)** 幼児期における問投詞の意味の解釈 ～『発話者同定課題』を用いた検討～  
○宇土 裕亮<sup>1,2</sup>、橋彌 和秀<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>九州大学大学院 人間環境学府、<sup>2</sup>日本学術振興会 特別研究員DC2、<sup>3</sup>九州大学大学院 人間環境学研究院
- 
- P2-10** 保育園における継続的な“眠育”実践(1)：子どもの睡眠の質向上に着目して  
○徳長 良美<sup>1</sup>、大森 正枝<sup>1</sup>、河南 佐和呼<sup>1</sup>、長谷川 武弘<sup>1</sup>、高橋 香織<sup>1</sup>、田中 亜希子<sup>1</sup>、三池 輝久<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>アートチャイルドケア株式会社、<sup>2</sup>日本眠育推進協議会
- 
- P2-11** 保育園における継続的な“眠育”実践(3)：質の良い睡眠を確保するための環境調査  
○河南 佐和呼<sup>1</sup>、大森 正枝<sup>1</sup>、徳長 良美<sup>1</sup>、長谷川 武弘<sup>1</sup>、高橋 香織<sup>1</sup>、田中 亜希子<sup>1</sup>、三池 輝久<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>アートチャイルドケア株式会社、<sup>2</sup>日本眠育推進協議会

- P2-12** 生後1年間にみるコミュニケーション・ミュージカリティ発現の様相：ナラティブからみる音楽性の発達的变化  
○今川 恭子<sup>1</sup>、市川 恵<sup>2</sup>、伊原 小百合<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>聖心女子大学、<sup>2</sup>早稲田大学、<sup>3</sup>日本学術振興会
- 
- P2-13 (YIA)** 乳児の瞳孔径の同調現象と皮膚電気反応  
○都地 裕樹<sup>1</sup>、金沢 創<sup>2</sup>、山口 真美<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>中央大学 研究開発機構、<sup>2</sup>日本女子大学 人間社会学部、<sup>3</sup>中央大学 文学部
- 
- P2-14 (YIA)** 野生チンパンジーの排泄行動の発達過程  
○松本 卓也<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>総合地球環境学研究所、<sup>2</sup>日本学術振興会
- 
- P2-15** 保育所利用乳幼児の睡眠覚醒リズムの特徴 ～成長による変遷と課題～  
○長谷川 武弘<sup>1</sup>、三池 輝久<sup>2,3</sup>、田中 亜希子<sup>1</sup>、高橋 香織<sup>1</sup>、成澤 美香<sup>1</sup>、村田 省三<sup>1,3</sup>  
<sup>1</sup>アートチャイルドケア株式会社、<sup>2</sup>熊本大学 名誉教授、<sup>3</sup>日本眠育推進協議会
- 
- P2-16** 生後6・7か月児の睡眠リズムと午睡時の授乳との関連  
○田村 典子<sup>1</sup>、佐治 量哉<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>玉川大学大学院 脳科学研究科、<sup>2</sup>玉川大学農学部・脳科学研究科
- 
- P2-17 (YIA)** 6-7ヶ月児と新生児における非隣接依存文法学習の脳内機構  
○蔡 林<sup>1</sup>、白野 陽子<sup>2</sup>、秦 正寛<sup>2</sup>、星野 英一<sup>2</sup>、有光 威志<sup>3</sup>、高橋 孝雄<sup>3</sup>、  
Watson Stuart<sup>4</sup>、Townsend Simon<sup>4</sup>、Mueller Jutta<sup>5</sup>、皆川 泰代<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>慶應義塾大学 理工学研究科、<sup>2</sup>慶應義塾大学 文学部、<sup>3</sup>慶應義塾大学 医学部、  
<sup>4</sup>Department of Comparative Language Science, University of Zurich、  
<sup>5</sup>Institute of Cognitive Science, University of Osnabrück
- 
- P2-18 (YIA)** The ability for rhythmic coordination develops between 18 and 30 months of age  
○ユ リラ<sup>1</sup>、明和 政子<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>京都大学野生動物研究センター、<sup>2</sup>京都大学大学院教育学研究科
- 
- P2-19** 自閉症リスク児と定型発達児の母子相互行動と言語・社会性の発達  
○秦 政寛<sup>1</sup>、山本 絵里子<sup>1,3</sup>、白野 陽子<sup>2</sup>、皆川 泰代<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート、<sup>2</sup>慶應義塾大学文学部、  
<sup>3</sup>相模女子大学人間社会学部
- 
- P2-20 (YIA)** 人形遊びが与える心の理論理解と言語能力への効果  
○宮原 冴佳<sup>1</sup>、関根 和生<sup>2</sup>、白野 陽子<sup>3</sup>、北村 千晴<sup>4</sup>、皆川 泰代<sup>1,4</sup>  
<sup>1</sup>慶應義塾大学大学院社会学研究科、<sup>2</sup>慶應義塾大学先導研究センター、<sup>3</sup>自治医科大学医学部、  
<sup>4</sup>慶應義塾大学文学部
- 
- P2-21** Mother-to-Infant bonding Questionnaire と Postpartum Bonding Questionnaire の特徴  
○末次 美子<sup>1,3</sup>、錦井 友美<sup>2</sup>、上別府 圭子<sup>3</sup>、吉田 敬子<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>九州大学大学院医学研究院保健学部門、<sup>2</sup>独立行政法人国立病院機構 長崎病院、  
<sup>3</sup>東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻、  
<sup>4</sup>医療法人すずらん会 メンタルクリニックあいりす
-